

感心

かんじる

中川根中の北原亮太君は滞在中、ホストファミリーのやさしさと愛情を痛いほど「感」じたと云います。わずかな間に、北原君の心をここまで動かしたものは。ホストファミリーはカナダで出会ったもう一つの家族。北原君が10日間のふれあいをレポートします。



北原君とホストファミリーのナオミちゃん、サムエル君（中央が北原君）

ホストファミリーと過ごした日々

僕のホストファミリーは、エステバンさん一家でした。ロミオ父さん、エレノア母さん、母さんの兄のガブリエルさん、9歳のナオミちゃんと6歳のサムエル君の5人家族です。

ホームステイ初日、集合場所のサリバンハイスクールに到着すると、母さんが出迎えてくれました。お互い自己紹介をして、お母さんが運転する車で家に向かいました。家に着いてびっくりしました。エステバンさんの家はとても大きく、庭もとても広いのです。裏庭は芝生が張られ、スプリングラーが回っていました。家に入ると、家族みんなが待っていました。リビングで母さんが家族全員を紹介してくれました。みんな笑顔で迎えてくれ、やさしそうな人

たちだと感じました。リビングで話をしながら、みんなにお土産を渡しました。寿司のキーホルダー、富士山のバズル、扇子です。富士山のバズルは特に気に入ってくれたようです。次の日の朝には、ナオミちゃんとサムエル君が遊んでいました。

僕は、英語の授業が好きで、多少自身もあったのですが、本場の会話を聞いて驚きました。話すスピードが速くて、何を言っているのかまったく分かりませんでした。自分の伝えたいことが伝えられず、もどかしさを感じました。しかし家族は、そんな僕の様子を見て、ゆっくり話してくれたり、ジェスチャーも交えたりして、分かりやすく伝えてくれました。言葉だけでなく、日本のアニメを見せてくれるなど、打ち解けやすい雰囲気をつくってくれました。

僕らはホームステイ期間中、昼間は英語研修や施設訪問などの活動をし、夜はホストファミリーとの時間を過ごしました。毎日、僕が帰るとサムエル君が待っていて、一緒にゲームをして遊びました。ゲームのお手本を見せると喜んでくれ、遊んでいるうちに自然と仲良くなれました。ナオミちゃんは、僕のためにピアノを弾いてくれました。曲名は分かりませんが、おだやかで心に響くメロディに感動しました。

訪問当初は、不安が大きくて緊張していました。家族は最初から、僕のことを「家族の一員」として接してくれていました。そのことに気が付いたとき、不安な気持ちはなくなり、僕は間違いなくエステバン一家の一員でした。

ずっと手を振り続けた別れるとき

充実しているときは、時間が過ぎるのも早いもの。あつという間に帰国前日となりました。

帰国前夜、生徒一同で、お世話になったホストファミリーに感謝の気持ちを込めて、「さよならパーティー」を開きました。父さんは仕事の都合で来られなかったけれど、母さんや

北原亮太君

Kitahara Ryota
下長尾地区部活はバスケットボール部に所属。好きな教科は英語。また日本空手松涛連盟川根支部に所属し毎週道場に通うスポーツマン。



他人だった僕が、いつの間にか「家族」になっていました。みんなが温かい愛情で包んでくれたから。

子どもたちが来てくれました。僕たちは、日本の文化である習字やソラン節、太鼓や空手の演舞などを披露しました。明日お別れだと思うと寂しくなるので、できるだけ明るく振るまうことを心がけました。生徒一同、同じ気持ちだったと思います。パーティーが終わって家に戻ると、父さんが仕事から帰っていました。父さんとパーティーの話をしていると、僕に「空手の演舞を見せてくれないか」と言いました。僕は、父さんの前で空手の演舞を披露しました。父さんはとても喜んでくれました。でも、父さんの目を見ると涙が浮かんでいました。このあと僕と一緒に、北京オリンピックの開会式をテレビで見ながら、「日本ガンバレ!」と、日本語で応援してくれました。

たくさんの思い出ができた研修も終わり、帰国当日を迎えました。僕は家族のみんなに別れを告げ、バスに乗り込みました。家族はずっと手を振ってくれました。僕たちも見えなくなるまで手を振りました。手が痛くなるほど振り続けました。

僕を包み込んでくれた温かな愛情

今でも、カナダであったすべての

出来事が心に残っています。その中で忘れられないのは、家族がくれた愛情です。他人だった僕が、いつの間にか家族に溶け込んでいました。家族からの、温かい愛情があったからです。おかげで、とても素晴らしい日々を送ることができました。

引率者 ● interview

毎回、生徒とホストファミリーは仲良くなります。中には、生徒たちにプレゼントを渡すホストファミリーもあります。北原君に「君は何かプレゼントをもらったの」と尋ねると「はい。ホストファミリーからたくさんの愛情をもらいました」と即答しました。かけがえのない贈り物に気づいた北原君。彼は、研修の本当の目的に気づいたと思います。



中川根中学校学年主任
新聞正信教諭
Shinma Masanobu